張するのでは，便宜上行なわれていることが実体をゆがめることになり，本末転倒ということになろう。

この本はツツジ，シャクナゲが好きで栽培している人達が協力して書いたものなので，栽培にかんしては貴重なことが述べられている。しかし一般の人への影響が大きいのだから，充分勉強した上で慎重な発表をしていただきたい。この本のツツジ類の解説の中には他人の長年にわたる研究をそのままのせて，資料を提供した研究者のことは殆んどふれていないものもあると聞いている。こうした研究に対する安易な態度が，不充分な理解で大胆なことを言うことにもつながっているのではないかと思う。よく売れる本で，いづれ再版されることになると思うが，そのさいには和名の無用な混乱をさけるためにもぜひ改めていただきたいものである。

（東京大学理学部 植物学教室）

□正宗厳敬：**日本の植物**　第 8 巻，295 頁，カラー 207 白黒，図 318，5，10，1969 高陽書院　価 3.500.　本書は「日本の植物」刊行会の代表正宗氏が，代表刊行者となっているけれども，タイトルページに著者の名がないが，正宗氏が著者であり，また刊行者代表であることは，まえがきや凡例から見て明白である。かゝる堂々たる刊行物には著者名を明記しないと，引照上からも整理上からも不便である。ことにこの本が海外人の手に渡った場合めいわくするにちがいない。それはともかく，まことに立派な出来ばえで，また著者独自の立場での撰択が行われていて，また坊間に行はれているいろいろな図鑑にもとめ得られないものが図説してあるのは結構である。本巻は単子葉類（II）でビャクブ科，サクライソウ科，ユリ科，ヒガンバナ科，ヤマイモ科，アヤメ科，バショウ科，ショウガ科，ヒナノシャクジョウ科，ヤクシマラン科，ラン科が収められている。なお，利用者の立場からすれば，各図に通巻番号をいれてもらいたかった。終りに続巻の編集刊行が順調にすゝみ，完結の日の速かならんことを期待してやまない。（久内清孝）

□倉田　悟：**植物と民俗**　A5，328 頁，索引 23 頁，口絵写真 12，15，10，1969，地球出版，1.200 円．植物と民俗，植物の方言名（奥武蔵，相模，周防，薩摩），草木を訪ねて，シダの在り処，植物方言集（熊本営林局管内，伊豆天城北麓，越中黒部，五箇庄）などの 5 項にわかれていて，内容見本のなかで著者は「人は旅人 — 私も草深い山里に民俗を訪ねるひとりの旅人にすぎない」と著者の言葉としてのべられていられるが，一読するとまことにその感がある。森林利用学者としての専門の仕事のかたわら筆をとられたもので，その点で長い間の蓄積であるから，燈火の下で心ゆくまで読まれる一書である。もし著者既刊の日本主要樹木名方言集や，続樹木と方言とともに本邦植物の方言を知ることにすれば，その点で植物方言の集録ともいえる。また索引がととのっているので，方言を引き出すのに都合がよい。（久内清孝）